

No.	大学名	プロジェクト名
	京都産業大学	起業プロジェクト

参加学生 (登壇者★)	★佐藤拓海 (法学部) 4 回生 ・岸渕佑哉 (法学部) 4 回生 ・島田和奏 (法学部) 3 回生 ・藤山晴基 (法学部) 3 回生	連携先からの ミッション	リサイクルを当たり前の生活習慣・文化として、定着させるための施策を考えよ
活動期間	2020. 10月 ~ 2021. 1月	受け入れ先 団体・企業名	リネットジャパングループ株式会社

ミッションへ取り組み概要（自由記述，図表・画像挿入可）

起業班としてミッションへ取り組むにあたり、ただ面白そうなことをやるのではなく、私たちが今後目指す持続可能な社会に貢献できる企業を立ち上げるために、どのような社会問題に対応した事業を実行していくか議論した。議論の中で出てきたSDGsに着目し、その中の「目標12：つくる責任つかう責任」で課題とされている廃棄物・リサイクルの問題（12.4と12.5）を解決することを目標として事業案を考えていくことにした。

事業案のヒントとなりそうな事業・ゴミやリサイクル問題に対する取り組みをリサーチし、最初に注目したのは「じゅんかんコンビニ24」であった(画像1)。「じゅんかんコンビニ24」とは、不要になった資源物を回収するサービスで、利用者は持ち込んだ資源物の種類・重量又は個数に応じてリサイクル貢献度というポイントが貯められる仕組みである。そのポイントでギフトカードなどと交換することが出来る。展開数は札幌を拠点とした30施設、他似たような企業が中部地方と中国地方に展開されている。これを元に関西、関東を拠点とした事業案を考えたが、施設を建てるには、ある程度広い面積の土地が必要となってくる点、過密地域では費用が高くなってしまいうという点を踏まえ別の事業案を考えるという結論に至った。

次に注目したのはイギリスの環境保全団体「Hubbub」が行ったタバコの吸い殻の投票型ゴミ箱に注目した(画像2、内容については発表資料記載)。この“投票型ゴミ箱”を利用することで、あらゆる資源の回収を行い、リサイクルに繋げることができるのではないかと考えた。投票型ゴミ箱の設置とリサイクル事業の大まかな概要・収益性について固め、リネットジャパングループ株式会社の社員の方々へ中間報告をした。報告後に頂いた改善点を改善するために、さらに、事業内容をより具体的にするために話し合い、事業案をブラッシュアップしていった。また、なぜこの事業を行うのか、事業を通してどのような社会にしたいのかという起業の原点を再度確認し直し、明確化していった。

そして、1月15日にリネットジャパングループ株式会社の社員の方々へ最終報告を行った。



ミッションに取り組む中で社会的課題として見えてきたこと（ミッションと深く関わる社会的な課題）

廃棄物・リサイクルの課題。日本の現状は「H30一般廃棄物の排出及び処理状況など」より、ゴミの総排出量や焼却量は減っているが、焼却率は増えており、リサイクル率が減少している。また、日本はリサイクルに対する意識がまだまだ低いのでリサイクル意識の向上を国全体で考えていく必要があり、分別をスムーズにできるシステム運用によって分別意識が上がれば良いと考える。国全体でリサイクルに取り組む意識をすることでリサイクル率の向上、ゴミの削減につながれば社会的問題の解決につながる。